

あなたの地域の活動「ちい活」を応援します！

地域のわ通信

Chikiryoku
Up!

マンションの垣根を越えたつながりづくり コットン・コミュニティ・タウン

▲コットンハーバー地区で地域の新たな居場所づくりを始めた
有志のみなさん

コットンハーバー地区では、地域のつながりと支え合いを進める新たなコミュニティづくり「コットン・コミュニティ・タウン（以後、CCT）」が始まっています。

個を尊重する人が多い都市部のマンション群の中で、マンションの垣根を越えたつながりづくりを目指しています。

そこでは、いろんな立場の人が関わり、がんばらない、無理をしないを共通意識に活動をしています。

◆ マンションの垣根を越えたつながりを作りたい！

コットンハーバー地区は、JRの東神奈川駅や京浜急行の京急東神奈川駅から海側に歩いたあたりです。象徴する高層マンションや商業施設があり、都市部の街という趣があります。

この地区の高層マンション群は高齢化が進み、子育て世代の交流の希薄さが課題で、多世代の住民が交流できる場の開設が望まれていました。また、地区のマンションは独立しており、地域のだれでも集まれる場がない状態でした。地区にあるマンション群（6棟）やサービス付高齢者住宅（1棟）の住民が垣根を越えた交流ができれば、高齢者や子育て世代の孤立化を防ぎ、安心して暮らせる街づくりを目指せるのではないかと、住民の有志が立ち上がり、都市部の新たなコミュニティづくりを目指す【CCT】の活動が2019年から始まっています。



▲高層マンションが立ち並びコットンハーバー地区

活動は、子どもから大人まで住民同士の交流を応援します！

CCTパーク(室内サロン)



今年度はコロナの影響で今期初は11月。LINEの使用方法を住民に教えるコーナーを設けました。

教えるのは、横浜国立大学の学生。「コットンおとなりさんプロジェクト」としてCCTと連携しています。

プレイパーク(屋外遊び)



親子を対象に、誰でも自由に遊べる野外の遊び場として6月からスタートしました。

場所は神奈川公園と星野町公園の2カ所で、月替わりで交互に開催しています。

立場は違っても、できる人ができることで活動に関わっています



地区では高齢者の独居も目立ってきました。高齢者の外に出るきっかけになるサロンにしたいです。

山田隆治さん(民生委員・地域づくり大学校(※)卒業生)



ひとりだけが頑張るのではなく、できる人ができることで関わる無理のない活動にしていきたいです。

長谷川英佐さん(住民の方)



世代を超えたご近所のお付き合いのきっかけになったらいいですね。

小金澤絵美さん(母と子のつどいの場「ほしのひろば」)



比較的、地域活動が盛んな地区です。それぞれの活動がつながり合えたら、もっと活動が楽しくなると思います。

村山正城さん(幸ヶ谷小おやじの会)



CCTでは、仕事では味わえない多世代のつながりがここにはあります。

梅本秀幸さん(住民の方)



私ができることで、この活動のお役に立てたら嬉しいです。

武樋久子さん(住民の方)

CCTの活動を支えるメンバーは、立場は違っても、地域を良くしたい思いは同じです。「地域のコミュニティづくりには時間がかかります。焦らずじっくり取り組む必要があります」とは、中心メンバーのひとりである長谷川さん。個を重視するマンション住民の自治会などを越えた新たな地域の居場所づくりは始まったばかりです。まだ参加者に偏りがありますが、ここから少しずつ形を変えながら、新たなコミュニティづくりの挑戦は続いていきます。

(*) 神奈川県地域づくり大学校
地域づくりのための学び合いの場。地域活動を解決する手法を区内外の事例を交え、講義・グループワークなどから実践的に学び、地域で行いたい活動を「アクションプラン」にまとめる。

団体名	コットン・コミュニティ・タウン(CCT)
主なメンバー	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員(地域づくり大学校卒業生) 現役世代の方「おやじの会」 子育て支援者「ほしのひろば」 コットンおとなりさんプロジェクト(大学生)
活動内容・対象者	<ul style="list-style-type: none"> ■CCTパーク(室内サロン) 自分のペースでゆるく人とつながれる、住民が自由に交流できるサロンを開催。 ■プレイパーク(外遊び) 『自分の責任で自由に学ぶ』をモットーに禁止事項を極力なくした野外の遊び場として開催。だれでも参加可。
経費	募金、各自治会からのサポート、可能な時は助成金をもらって賄う。